

町 伊方小学校「方城大非常」授業 の歴史から後世に語り継ぐ「命」の尊さ

国内最大の炭鉱爆発事故「方城大非常」の授業が12月13日に伊方小で行われました。6年生53人は、犠牲者遺族の白石文紀さん(後谷)が生存者の体験を元に制作した紙芝居で事故の悲惨さを学習。給食には事故から生まれた郷土料理「方城すいとん」がメニューで並び、郷土の味と一緒に命の尊さも噛みしめていました。



↑ 12月13日の給食として町内全校でメニュー化された名物「方城すいとん」。

↓ パーツも科技校の生徒たちが、ふくちのちの「ファブラボ」でひとつずつ作成。



児童 田川科技校の生徒が市場小で初の工作授業 の「ものづくりの芽」育む工作授業

福智町に住む田川科学技術高校の1年生10人が12月5日に市場小で初めて工作の授業を行いました。今回は、科技高の生徒が設計した「段ボール御神輿」を6年生72人が工作。指導した生徒たちは「同じ町に住んでいる子どもたちが、ものづくりの楽しさを知り、少しでも興味を持ってくれたら」と期待を寄せました。

第20回 福智町弓道大会 弓の名手集う大会で「福智大黒天」が活躍

毎年多数の選手が参加する「福智町弓道大会」が12月8日に福智町弓道場で開かれました。今年は町内の選手21人を含む215人が参加。福智町の選手は、団体の部では惜しくも入賞を逃しましたが、個人の部で「福智大黒天」の選手が大活躍を見せ、藤岡利恵子選手が準優勝、佐藤泉選手が6位入賞に輝きました。



↑ 鋭いまなざしで28mも先にある的を射抜いた「福智大黒天」の弓道家たち。

↓ 第4次産業革命をもたらす超スマート社会と教育の将来像を示す松浦教授。



未来描くことが今という時と人を生かす

福智町PTA連合会(大坪会長)主催の教育講演会が11月27日に公民館金田分館で開催されました。福岡県立大の松浦賢長教授が「教育への投資」について講演。「人生の選択肢を広げるのが教育。未来のために今を使うべき」と、近い将来訪れる「超スマート社会(Society5.0)」にふさわしい教育の姿と価値を伝えました。

↓ 見守る先生や観客の前で、各校代表の8人が、落ち着いた態度とはっきりした口調で主張を発表。



第14回 福智町少年の主張大会 各校代表が胸の思いを表現

青少年育成町民会議主催の「少年の主張大会」が12月1日に金田分館で行われました。町内8校の代表が夢や社会への意見、日々の思いを堂々と発表。「礼儀」をテーマに、しっかりとした目配りや声のトーンで意見を述べた竹崎佑希さん(金田小)が最優秀賞に輝きました。竹崎さんは2月16日に地域交流センターで行われる田川大会に町代表として出場します。

田川警察署「安全安心特別警戒出動式」 日田川警察署長にIKKOさん任命

田川警察署の「出動式」が11月26日に田川青少年文化ホールで行われ、福智町観光大使のIKKOさんが一日警察署長に任命されました。IKKOさんは、関係者約400人の前で自身が受けた犯罪被害の体験談を交え講演。「連帯感ある故郷田川の地域性を生かし、住民一丸となって犯罪を防止してほしい」と呼びかけていました。



↑ 2007年の流行語「どんだけえ〜!」で警察官の士気を鼓舞したIKKO署長。

↓ 虐待の対策についても触れ「子どもの声を拾うアンテナを広げよう」と強調。



大人が見守り広げる子どもたちの未来

12月4日から10日の人権週間に、より深く人権を考えるきっかけとして11月26日に地域交流センターで町主催の講演会が行われました。子どもの居場所を作る活動を長年続けてきたNPO法人代表の百田英子さんが講演。「周囲の温かいまなざしが子どもを守る」と会場の約400人に見守りの重要性を訴えました。